

# ボトムアップ型推進と成果の両立を目指して

【会社名】 林テレンプ株式会社

本件担当：品質保証部 稲村(0565-45-7178)  
t.inamura@hayatele.co.jp

## I. 活動の種類

【】 1. 運営事例

【】 2. テーマ事例

- |   |  |                              |                                  |                               |
|---|--|------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> TOPの理解と関心                  | <input checked="" type="checkbox"/> 活動の意義と楽しさの体験 | <input type="checkbox"/> ほめる | <input type="checkbox"/> 段取り力向上  | <input type="checkbox"/> 業務改廃 |
| <input type="checkbox"/> 事務局の充実による牽引力強化             | <input type="checkbox"/> 計画的な指導員育成               |                              | <input type="checkbox"/> プロセス改善  | <input type="checkbox"/> 再発防止 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 活動の目的とゴール明確化と実行 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( KPI )  |                              | <input type="checkbox"/> その他 ( ) |                               |

## II. アピールポイント

1. 後工程満足を主目的とするJKK

2. 成果目的の導入

3. 活動のKPI発見

## III. 背景

- ・JKK活動は、唯一の全社改善活動
- ・従業員数 単独：1,542名 ※2017年3月  
毎年600～700名がテーマ活動に参加
- ・事務局は品質保証部  
(JKK・問題解決・SQCの総合推進部署)

## IV. 導入期～建て直し期

2008年

導入期

3つのツール活用をベースとし、管理職中心に事例作成と発表。  
委員会での運営を中心とし、数人の“宣教師”が個別指導。  
担当者中心に活動がシフト

2012年

**問題**： 事例をまとめて発表するだけの**形骸化**した活動に…

JKK・問題解決・SQCの専任部署を新設

2013年

建て直し期

対応策

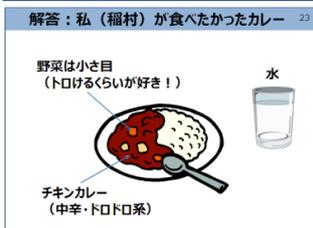
2013年～改訂



### 1. ツール活用/標準化…ではなく、後工程満足を主目的とするJKKに

教える…ではなく

**気づかせる体験教育**



“後工程ニーズ”の大事さを自ら“気づかせる”ための林テレ流カレー演習

指導…ではなく

**活性化の為の支援**



正しさや結果よりも、“場の活性化”を重視したテーマ支援の強化

発表会…ではなく

**気づきの全社共有会**



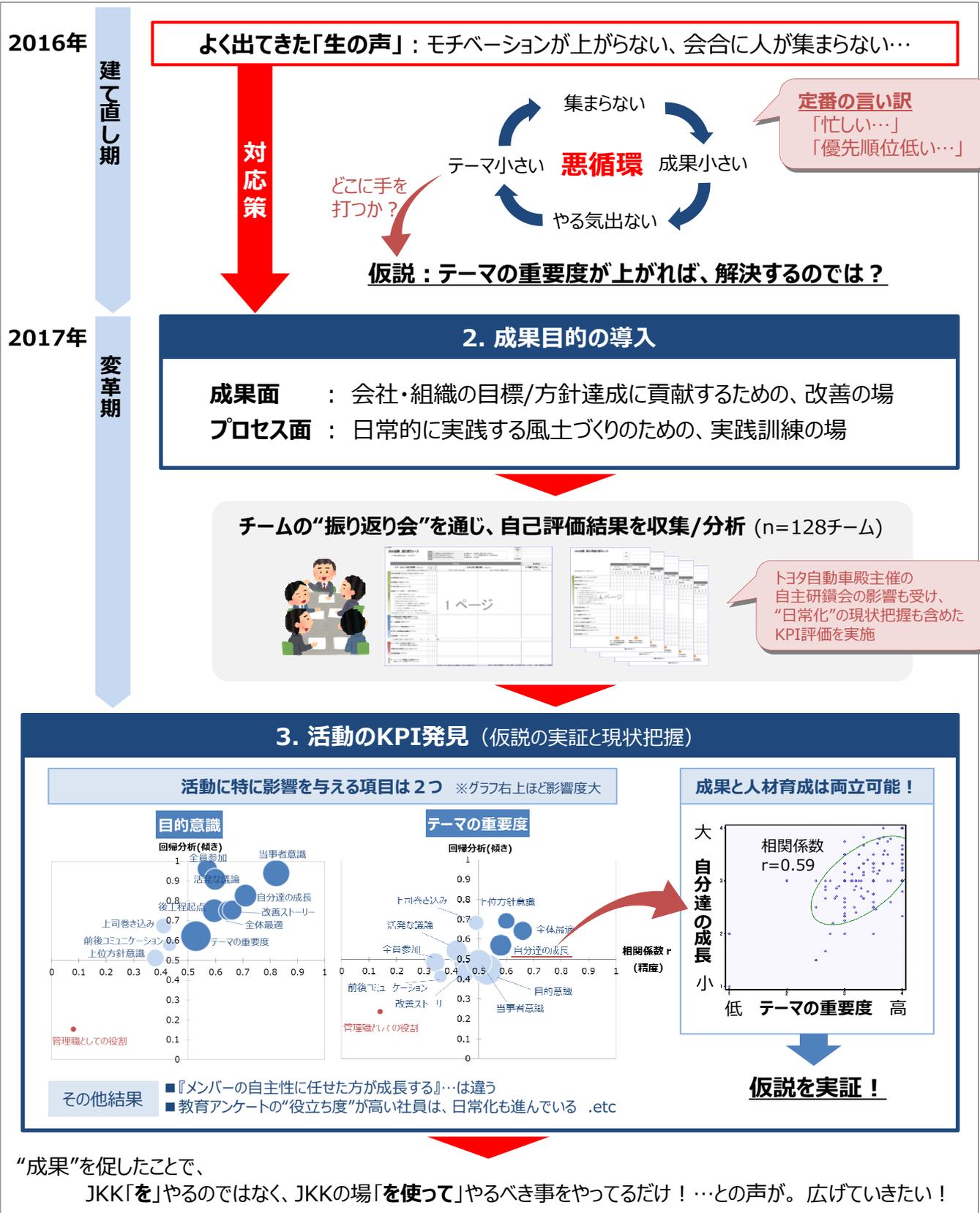
聴講者は、“アンケート記入”ではなく、自業務へ活かす“気づき/学び”を記入

2015年

効果

“後工程”意識が浸透し、部門間の連携など、活動の広がりが出てきた！  
…が、一方で課題も。

#### IV. 建て直し期～変革期(現在)



#### V. 所感と今後の課題

**所感**：言葉と肌感覚でしか説明できなかった事を数値化でき、“常識”や“先入観”に対抗する術を持てた！

2018年

課題

- 測定したKPIの活用、業務成果の測定
- テーマ活動を活かした日常化施策の強化  
例) 管理職の役割明確化 (日常化KPIの達成は、管理職の役割と定義し、評価)